

JCV 邦楽コンサート・餅つき大会報告

6月19日日曜日にセント・フィリップ・アングリカン教会で、JCV 邦楽コンサートと餅つき大会が催された。邦楽コンサートのアイデアは去年 JCV 会員にどんな行事をしてほしいかアンケートをとった時、坂本敏範氏より提案があったものだ。6月にイベントをするなら、餅つき大会も一緒にしようという宮尾匡副会長から提案があり、邦楽コンサート・餅つき大会の運びとなった。

餅つきと言えば、日本人の感覚で言えば、新年に行うもの。去年は新年会で行われたのだが、その日の気温が40度。焼き付けるような日にあたりながら、熱中症になりかねない状態で行われた。それに懲りて、今回は冬の行事としてやることになったのである。

1時半にデービス啓子会長の挨拶を皮切りに、コンサートが始まった。最初に出演したのは10人以上のチビちゃん達とその親御さんたち。チビちゃん達が小さな



手に撥を持って一生懸命太鼓を叩く姿は愛らしく、微笑ましい。その後は、大小様々な太鼓と太鼓のたたき手が入れ替わり立ち代り、素晴らしいリズムを奏でてくれ、床の

振動までが心突き動かし、皆見とれた。会場は人で一杯に埋まり、椅子が足りなくて、後ろで立っている人も多し。観客のおよそ半分は白人。太鼓のたたき手も、日本人よりもオーストラリア人のほうが多そうなお感じ。日豪文化交流のいい見本だと思わずにはいられなかった。



思い出させた。



笛の演奏の後は、只野徳子さんとシャミーズの威勢のいい津軽三味線の演奏。只野さんの作曲した「花火」と言う曲も披露された。只野さんは先月日本に帰り、津軽じょんがら節を弾いて「弘前築城四百年記念特別賞」をもらったとか。只野さんのハリのある声は津軽三味線のリズムのある音色と共に会場に響き、観客の心にしみた。

只野さんとシャミーズの後はアダム・シモンズさんの尺八。わびのある尺八の音は、皆をしんみりさせた。その後は再び和太鼓リンドウの登場。会場はまた景気のいい太鼓の音に包まれた。

それが終わると、只野徳子さん、坂本敏範さん、アダ

ムさんの共演。すると、どこからともなく日本人青年が紙と筆を持って現われ、曲に合わせて5メートルはあるかと思われる紙にスラスラ力強い字を書いていく。その青年は野竿進悟さんという書道家だと後で知った。



コンサート最後の締めくくりは、力強くエネルギーに溢れた和太鼓リンドウの演奏。太鼓を叩いている人の顔



も、太鼓を聞いている人の顔も笑顔であふれる。前の演奏に見とれていると、突如として右手から、そして左手から、最後には後ろからも太鼓が聞こえ始め、会場全体が、太鼓の音に包まれた。

そして、予定の1時間半を超過して2時間近くに亘って行われた演奏会は、拍手喝采のもとに終わった。

後で観客の感想を聞いて回ったところ、「楽しかった」「エネルギー一杯でインスピレーションがもたらされた。とても感動した」「ストレス解消になった」と皆さん大満足。特に47年前にオーストラリアに来て、初めて邦楽を聴いたという方は、「迫力があって素晴らしい！」と感激されていた。今回は足が悪くて日頃どこにもいけないというお年寄りをケアリンクの人たちが、お迎えの人を手配したり、車椅子を用意してくださり、いろんな方に来ていただけた。

演奏会の後は、教会の中庭で餅つき。宮尾さんが重い臼を一人で運んでこられ、伊藤修さんと永嶋実さんが加わって、威勢よく餅つきが始まると、臼の周りは人盛り。お餅の入ったカップに、伊藤玲子さんと斉藤幸子さんが用意してきたぜんざいを入れてもらい、久しぶりのお餅



入りのぜんざいに舌鼓を打った。「つきたてのお餅を食べるのは、生まれて初めて。おいしいですね」と幸せそうな顔をして言う人もいた。

「これからも、こんなイベントをドンドンしてください」と言う声があちらこちらで聞かれた楽しいイベントだった。

このイベントを提案し、実行してくださった坂本さん、宮尾さん。ありがとうございました！



(久保田満里子 記)